

ゴボウ（水田トンネル）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
作型												
主な作業	間 引 収 穫 トンネル 除去 播 種 除 草 トンネル 被 覆											

(4) 経営規模 110a
 (家族労働力 2 人の場合)

技 術 体 系

1 作型の特徴

水田との輪作体系のため、土壌病害の心配が少ない。暖地を生かしたトンネル栽培なので、3 月からの早出しが可能であるが、埴壌土で耕土の深い水田に限定される。

また、トンネル栽培では抽だいの危険性はすくない。

2 適応地域

水田平坦地

3 栽培条件

(1) 温度条件

春まき・秋まきを参照

(2) 光条件

春まき・秋まきを参照

(3) 土壌条件

春まき・秋まきを参照

4 施設装備

トンネル

5 経営目標

(1) 収量

1.5 t / 10a

(2) 投下労働時間

290 時間 / 10a

(3) 所得率

39 %

栽 培 技 術

1 品種と特性

「渡辺早生」

春まき・秋まき参照。

「あずま早太り白肌」

春まき・秋まき参照。

「柳川理想」

春まき・秋まき参照。

2 本圃の準備

(1) 圃場の選定

水田裏作のため、夏期湛水状態におかれるので土壌病害やセンチュウ害の心配はほとんどないが、排水が良く、耕土が深い圃場を選定する。

(2) 深耕

長くてまっすぐなゴボウを作るために、必ず深耕する。播種位置をトレンチャーで、幅 30cm、深さ 60 ～ 70cm 程度深耕する。

(3) 施肥

堆肥は完熟堆肥を 10a 当たり約 2t 施用する。緩行性肥料または肥効調節型の被覆肥料を主体とし、全量基肥とし深耕部に施肥する。

施肥量		(kg/10a)	
	N	P ₂ O ₅	K ₂ O
基 肥	17	32	17

※施肥量は土壌診断結果により加減する。

(4) 栽植様式

畦幅はトラクター幅に合わせ、65 ～ 75cm とし、株間 4 ～ 8cm の 2 条植えとする。

(5) 播種

シーダーテープまたは播種機で播種する。種子は一昼夜水に浸漬して陰干しする。

収穫時期に合わせて株間 4 ～ 8cm とし、深耕位置に播種する（2 条まき）。覆土は 1cm 以内とし、覆土後軽く鎮圧する。また、乾燥防止、雑草防止のため、播種後敷きワラを行う。

(6) 除草

初期生育が遅く、雑草の被害を受けやすいので、除草剤を利用する。

(7) トンネル被覆

寒さに順応させるため、トンネル被覆は 12 月中旬に行う。

(8) 収穫

収穫当初は、生育の早いゴボウだけを手堀り収穫する「間引き収穫」を 2 回程度行い、その後ルートディガーによる総堀りを行う。

総堀りは、最初刈払い機等で葉を処理し、そしてルートディガーで堀取る。



ゴボウ収穫

(9) 後整理

後作に水稻を作付けするため、収穫時にトレンチャーで深耕した部分を、トラクターで数回往復して鎮圧する。